

クラウド上に構築した安全！簡単！

情報モラルSNS疑似体験システム教材の開発

実践の情報モラル教育研究チーム 代表 今度 珠美

実践の概要

SNSの適切な利用を学ぶ情報モラル教育用SNS疑似体験教材を開発した。SNSの特徴であるアイコン、グループトーク、スタンプ、既読表示といった機能を実現し、プライベート環境で動作できる安全で操作が簡単なSNSシステムとした。改良版では、遠隔地からでも容易に利用できるクラウドを用いたシステムを開発した。

1. 本研究の目的と教材の概要

1.1 研究の目的

文部科学省は、特別支援学校高等部において、「生徒が情報モラルを身に付ける」とともに、「コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ実践的、主体的に活用できるようにするための学習活動を充実する」こととし、障害の状態等に応じた情報保障やコミュニケーションの方法について配慮するとともに、教材の活用について配慮する、と示している。しかし、特別支援学校では認知段階や理解度に個人差があるため、一般的な情報モラル教材では実践が難しく、また、学んだように実生活で行動選択ができないことが課題となっている。事例を体験しながら学べる教材が求められていた。

このような課題を踏まえ、筆者らは体験型の情報モラル教育教材を開発することとした。子どもが日常的に利用しているSNSを疑似体験できるシステム教材「とりりんチャット」を開発し、生徒が主体的に学び、体験する中で適切な利用の仕方を学ぶことが可能で、安全、簡単に管理できる教材の開発を試みた。本教材の概要と、特別支援学校、小学校での実践について報告する。

1.2 教材の概要

<特徴> 本教材を活用した実践では、タブレットを

使い、体験を通してSNSの適切な活用について学ぶことで、機器やツールの特性も学習することができる。また、班活動で交流しながら学習することで、多様な考え方や価値観があることを知り、実生活でのコミュニケーションでも学びを生かすことができることとした。補助教材として指導案、ワークシート、スライドを用意した。

<工夫> 本教材の操作手順は単純で、システムにアクセスして登録、ログインすれば、個別の閉鎖された安全なプライベートチャットルームでの投稿が可能となる(写真1)。SNSの特徴である既読表示やスタンプ機能も実現し、教員用の画面ではメッセージ履歴の削除、保存など管理が可能とした。

<新規性> 本教材のシステムは、主となるノートパソコン上にサーバ機能と無線LANアクセスポイント機能を構築し、教室内イントラネットとして運用してきた。ノートパソコン1台を持ち込めば、インターネット環境がない教室でも授業実践を行うことができた。

その上で本実践での改良版では、全国のどのような立地の学校からも容易に利用できるように、インターネットを利用したクラウドサービスを新たに開発した。クラウドサービスはインターネット経由で簡単に利用できるが、ネットが利用できる環境なら誰でも使えるという危険がある。本教材は、授業者がチャットルームの管理者としてアカウント登録を行えば、管理者が授業用のプライベートなチャットルームを開設でき、パブリックなインターネットから隔離された「安全な環境で動作するSNS疑似体験」を実現可能とした。本教材は、安全な個別の環境で自由に使用可能としている点で既存のチャットとは異なり、全国のどのような立地やネット環境の学校でも、容易に活用することができるようになった。

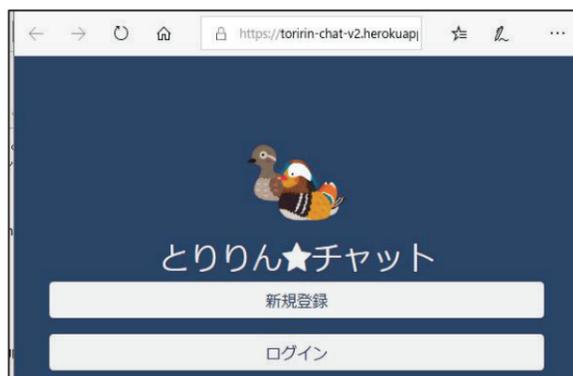


写真1 ログイン画面



写真2 授業実践の様子

2. 実践内容

2.1 特別支援学校高等部での実践

平成30年10月、北海道A特別支援学校第2学年において実践を行なった。実践校は小規模校ながら高等部生徒全員がインターネット機器を所有し、事前アンケートでは半数がLINE等で嫌な思いをしたことがあると回答した。とりりんチャットを活用した体験型学習を通して「今後の社会生活においてSNS等を積極的に安全に活用し適切に情報発信できるようになる」を目標に単元を設定した。(指導略案参照)

本実践では、一人一台のタブレット機器を使用し、SNS疑似体験をできる環境を用意した。

実践では、教師が簡単な投稿のテーマを示し、生徒は自由に投稿を行った。教師が生徒になりすまし、悪口の書き込みを行った。そして、シンキングタイムで気になった投稿について話し合い、どのように対応する必要があるかをグループで話し合った。最後に、教師になりすましをしていたことを話し、チャット上では簡単に大人が子どもになりすませること、適切な対応の仕方などを確認した。

評価は、A目的に到達することができた、Bおおむね目標に到達することができた。C支援を受けたが目標に到達することができなかった。D目標の設定と支援が実態に応じていなかった。の4段階で評価した。個別の目標の「様々な書き込みがあることを知り、その対応について理解することができる」「適切な内容で書き込みをすることができる」「適切な意見を発表することで、書き込みの内容の大切さを理解することができる」では、それぞれ概ねAまたはBの評価(達成度)となった。

2.2 小学校5年生での実践

平成30年11月、金沢市B小学校第5学年において実践を行なった。実践校では5年生児童34名の半数がスマホまたはタブレット端末を所有していた。5年になるまでSNSに関する学習は受けたことがなくSNSを利用し

ているが特性などの知識は非常に少ない実態であった。とりりんチャットを活用した体験型学習では、「いじめにつながるような書き込みやなりすましへの対応を学ぶ」「投稿の意図が必ずしも思ったようには伝わらないことを知る」「SNSとの適切な付き合い方について自ら考えを深める」を目標とした展開とした。とりりんチャットはこれまで特別支援学校のみで使用してきたが、本実践は小学校での初めての試みとなった。

実践では、教師が示す話題について自由に投稿し、取り上げた投稿について他の人はどう思うかを話し合った。その上で、不適切な投稿に対し、どう行動するべきかを考えた。そして、教師がなりすましていたことを伝え、匿名のSNS投稿では相手はどんな人か分からないこと(容易になりすませること)を押さえた(写真2)。

3. 成果

本教材の活用による実践では、特別支援学校、小学校、それぞれのワークシートには「友達が悲しい気持ちになることは書いてはいけない」「簡単になりすましができる」「自分が面白いと思う投稿でも人によっては不快に思う表現がある」「困った時は相手に気持ちを伝えたり大人に相談する」などの記述が見られた。授業者からは、「すぐに投稿に慣れて使いこなした」「直接画面を見ながら具体的に指導ができた」「取扱が簡単」「投稿や管理面での安全性が非常に高い」などの意見が寄せられた。

今回、クラウド版に改良したことで、北海道、金沢など遠隔地の学校での実践が容易に可能になった。金沢の学校では31台のタブレットに安定して接続できた。

4. 今後の展開

本教材は、これまで実現が難しかったSNSの疑似体験を、どのような環境下の教室でも安全に再現し、体験の中から適切な利用を学ぶことができる点が先進的であると考える。今後、全国各地の学校でより広く活用いただけるよう、クラウド版教材の無償での公開、提供を進めていく。

学習活動	子供活動	指導上の留意点
【本時の学習内容】 ●指導目標/第2学年「キャリア学習」 知識・技能：タブレットの基本的な使い方を理解し、文字を正しく入力することができる。 思考・判断・表現：様々な書き込みに対して適切な対応を仲間と相談しながら考えることができる。 主体的に学習に取り組む態度：SNSでの自分の発言に責任を持つことの大切さを理解し、内容を考えてながら発言することができる。 【指導略案】 ●単元指導計画(全体時間4時間) (1)情報モラルに関するアンケート実施(1時間) (2)タブレットの使い方・SNSの基本操作(1時間) (3)SNSでの書き込みで気をつけること1(1時間) (4)SNSでの書き込みで気をつけること2(1時間) ●本時の目標と展開 平成30年10月 2学年8名 ア 知識・技能：様々な内容の書き込みに対して、どのように対応すればよいのかを知ることができる。 イ 思考・判断・表現：自分がどのような言葉を発言すればよいのかを考え、仲間と相談しながら発言することができる。 ウ 主体的に学習に取り組む態度：自分の発言に対して責任を持つことの大切さを理解し、意欲的に発言することができる。	本時の学習内容の確認。 使用ルールの確認。 タブレットの電源を入れて準備	本時の内容を板書 黒板にルールを掲示 タブレットの指示
起動しページを開く。 チャットにログインする。		
チャットに自由に発言する。 悪口の書き込みへの対応を考える。 グループで発表。 適切な対応を確認。		
今日の学習内容を振り返る。 タブレットの片づけ。	悪口の書き込みが多いことを知り、適切な対応ができたことを理解する電源を切る操作。	SNSトラブルの多くが悪口であることを伝え、困った際には大人に相談することの大切さを伝える。